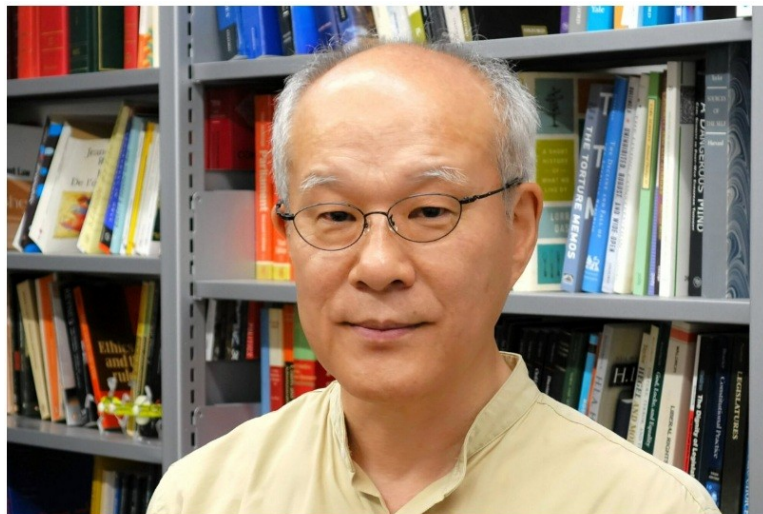


欧米がお手本だった意味 長谷部恭男さんが語る立憲主義の危機と日本

聞き手 編集委員・塩倉裕

2025/8/5 7:00

近代日本がお手本にしてきたはずの「欧米」。米国でトランプ政権が再登場したこともあってか、一部では「日本の方がマシに思えてきた」との声まで聞かれる。この事態をどう受け止めればいいのか。そして、そこから見える日本の現在地とは。立憲主義や民主主義に詳しい憲法学者の長谷部恭男さんに聞いた。



◇ 長谷部恭男さん

ポピュリズムの台頭、揺らぎの根に

日本は**欧米をお手本**にしてきたのかと言え、してきたと私は思います。そもそも明治国家を造るために岩倉使節団が歴訪した先が欧米でした。戦後日本にも、欧米を目標とする発想は続いています。

そのお手本に揺らぎが見えてきたという意識が今あるとしたら、**根っこにあるのはポピュリズムの台頭に対する警戒感**でしょう。

確かに心配は心配です。とりわけ米国では、ポピュリズム的な人気に支えられたトランプ政権が**違憲・違法な方法で大学をいじめており、近代立憲主義を守る防壁になってきた制度を壊そう**ともしています。

しかし、政治学者のデイビッド・ランシマンさんが言うように、**民主主義は失敗から学ぶことができるシステム**です。いま調子が悪いからといって米国の民主主義システムそのものをダメと総括できるものでは、おそらくないでしょう。また立憲主義の危機を言うなら、日本の安倍晋三政権もずいぶん乱暴なことをしたので、他国のことは言えません。

そもそも民主主義とは

そもそも「民衆は政治的主体としてあてにできない」という話は、100年以上前に社会学者の**マックス・ウェーバー**も言っているものです。結局のところ、**民衆ではなく少数のエリートが議論を方向付け、カリスマ的な指導者が官僚化した統治機構と政党組織に従えながら民衆の鼻面を引き回すのが民主主義なのだ**、と彼は言いました。

つまり、**民主主義は昔からそういうものであったし、今もそうである**ということです。**今の米国の場合は、指導者であるトランプさんが尊敬に値する人に見えないので余計に心配に見える。それだけの話**です。

もし「欧米が混乱しすぎて日本の方がましに思えてきた」と感じる人がいるのなら、日本がまだ切るべき舵（かじ）を切っていない可能性を疑うべきでしょう。

★近代国家には二つのモデルがあります。

一つは政府が国家としての目標を設定して「ついて来い」と全国民に号令をかけ、達成された果実は全国民に公平に配る国家です。（「企業体」としての国家モデル）

もう一つは、政府は国家目標を掲げず、**どう活動するかは個人や企業に自由に決めさせる国家**（「広場」としての国家モデル）で、**新自由主義はこちら**です。

哲学者のマイケル・オークショットは、**前者を「企業体」としての国家モデル**、**後者を「広場」としての国家モデル**と呼びました。

広場(新自由主義)から企業体（国家主義）へ？

グローバル化によって労働コストが切り下げられ、庶民が貧しくなったことを受けて、**欧米では政府が前者（企業体モデル）に舵を切る動き**が進みました。富を自国庶民に配分することを国家目標にし、多国籍企業の国内での活動に制限を加えるなどの動きです。「広場」から「企業体」の方へ舵を切った形です。

それに比べると、**日本ではまだ新自由主義の影響が強く、広場からの転換が進んでいません。**

歴史的に見れば、日本は 80 年前の敗戦を機に、**戦前の企業体国家から広場としての国家の方向へ大きく舵を切っています。**加えて 20 世紀末から今世紀にかけて、広場としての性格をさらに強める改革が進みました。世界中の資本が自由に活動できる場に日本を変える新自由主義的な改革が一例です。どちらの転機にも、西側の基準に近づこうという意識が働いています。

突きつけられているのは、**欧米各国が相次いで舵を切っている中で日本だけが今のままでいられるのか**との問いです。注目された「日本人ファースト」という気分も、同じ問題意識に根を持つものでしょう(????)。

もちろん、政府の目標に国民を従わせる方向へ傾き過ぎれば自由が奪われかねません。もし企業体の方向へあまりに傾いてしまえば、立憲主義が揺るがさ

れる事態や戦前の日本のような国家に近づく危険も生じてくるからです。難破しないよう気をつけながら狭い航路を進む心がけが必要でしょう。

長谷部恭男さん はせべ・やすお 1956 年生まれ。早稲田大学教授。現在は君主制原理などについて研究中。著書に「憲法とは何か」「憲法と平和を問いなおす」など。